



## 愛知大学 法経学部 経営学科

法経学部、文学部、女子短大(生活科、文科)と第二部(夜間)があり、法経学部は名古屋にもまったく同じものがあります。法経学部は法学科、経済学科、経営学科にわかれ、各学科ともその上に、修士、博士課程があります。しかし、近い将来、3学科は各々学部に分れ、経営学科は三好(名古屋近郊)に移転する予定になっております。私は経営学科に属し、主として豊橋のほうで教育にあたっております。

学部学生は3年になると各自の希望する演習(ゼミ)を選び、そこで2年間すごし、最後に卒論を書いて卒業することになっております。このゼミが経済学科と経営学科は相互乗り入れになっていて、私のように数理的なことをやるゼミにはほとんど経済学科の学生が占めます。私の場合、1学年はほぼ15名前後ですので、ゼミ生は全部で30名くらいいます。

経営学科で開講している理工系の授業は電子計算機概論(演習含む)、経営数学、経営統計学(選択必修)であり経営学科の学生はその他に、経済学科の数理統計学、社会統計学、計量経済学、応用数学も選択することができます。前者の3科目は私が担当しております。

当大学ではコンピュータに関する授業は、この電子計算機概論だけですので毎年どういった授業をしていくかいろいろ考えます。昨年末からSPSS(統計プログラム・パッケージ)が導入されましたので、後期はほぼこれの使用法について教えました。自分でプログラムを作らずにいろいろ出力されるので、とても楽しかったようで最後の総合レポートとして民力、家計調査その他の統計調査資料等にもとづいて何かSPSSまたはFORTRANプログラムを用いて書きなさいと出題したところ、次のようなおもしろい30個のレポートが出ました。

32年間の外国人の入国者および日本人の出国者統計について(中国人留学生レポート)

日本の高齢社会における福祉の分析

わが国の国際収支実績における回帰分析

愛知県内キャンパウンセラー団体共通意識調査報告

人口動態からみた世帯数の重回帰分析

地域別にみた失業率と就業構造の関係

規模別産業別設備投資動向と景気動向との関係、その他。

次に私のゼミについて紹介いたします。

ゼミは他の先生方もほぼ同じですが、外書とだき合わせにしてゼミの補助にしております。私は外書で数値計算、線形代数の初歩をテキストに選び、数値計算のテキストにのっているプログラム(全部組むのは学生に無理なので)を少々修正する程度で入力させてFORTRANプログラムの練習も兼ねさせております。ゼミでは1変数の統計学を必要とある程度教え、後期は実際のデータの解析ができるように多変量解析(分散分析、重回帰分析、主成分分析、数量化理論、その他)に重点をおきます。小林龍一、鈴木義一郎、脇本、駒沢、杉山高一、奥野忠一、その他の方々の本、数理科学の特集号、東大大型計算センターのPPSSのマニュアル等にのっているおもしろそうな応用例題をひっぱりだしてきて、彼らの興味をそそり、それから理論的、解析的なことの説明に移ります。そして、毎週2または3題の問題を出し、ゼミの前日に提出させゼミの日に添削したものをかえすと同時に正解を教えます。また、後期の半分は本を読む練習の意味で与えた本の一部分を発表させます。こうして3年は終わります。

4年になると各自で興味ある資料を探し、卒論に移ります。卒論は義務づけておりませんので、私のところでは毎年書く学生は少数です。はじめは書くつもりで資料探しなどしていますが、就職活動に追われやめてしまいます。1つには、既存のプログラムが全然なかったので全部自分で組まなくてはならなかったのが原因かもしれません。コンピュータに強い目だった学生がいなかった割には、今年は6件の提出があり、次の5件が統計解析による論文でした。

「都道府県別文化水準比較…相関と回帰…」

「量目抽出検査の統計解析」

「情報処理産業の経営分析」

「パートタイマーの統計的分析」

「賃金分析…産業間・男女間の格差について…」

この中の2件は、当大学法経学会の学会賞と努力賞を受

けることになっています。

ゼミ活動として、希望者(3年生)だけ3月中旬頃3日間、東大または京大の大型計算センターの見学につれていきます。

私はここきて4月で7年目をむかえます。経営学科でも学部分離を機に情報関連科目の充実を考えております。  
(相良信子)

## 広島修道大学 商学部 管理科学科

本学はキャンパス総面積36万7200m<sup>2</sup>、学生総数5292名(1984年7月5日現在)の文科系総合大学である。大学名の「修道」は中国の古典「中庸」の「天の命之を性とてい、性に率う之を道とてい、道を修むる之を教とてい」に由来し、さまざまな個性を伸ばすことである。

本学園は旧浅野藩校開設(1725年)以来250年を超える歴史と伝統をもっている。大学としての歴史は昭和27年の修道短期大学(商科)第2部の開学にはじまる。昭和31年にはこれに加えて第1部を開設している。そして昭和35年、広島商科大学(商学部、商業学科4年制昼間)を開設し、それから昭和38年には「経営学科」を、つづいて昭和44年には「管理科学科」を増設した。さらに、昭和48年、「人文学部」(人間関係学科、英語英文学科)を増設、それにともなって名称を変更し、広島修道大学となった。また、昭和49年には観音キャンパスから沼田新キャンパスへの総合移転を果し、昭和51年には「法学部」(法律学科)を増設した。

大学院に関しては、昭和46年大学院商学研究科「修士課程」、昭和48年同「博士課程」、昭和53年人文科学研究科心理学専攻・英文学専攻「修士課程」、昭和56年同「博士課程」を設置するとともに法学研究科「修士課程」を設置。さらに昭和59年人文科学研究科社会学専攻・教育学専攻「修士課程」を設置した。以上のような経過を経て本学は商・人文・法の3学部と大学院をもつ文科系総合大学となり現在にいたっている。

その中であって管理科学科においては次のようなカリキュラム(専門教育科目)が設けてある; 情報処理論Ⅰ、オペレーションズ・リサーチⅠ、システム論Ⅰ、経営学総論、会計学原理、経済原論Ⅱ、ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ、プログラミング、情報処理論Ⅱ、情報処理論Ⅲ、情報処理論Ⅳ、オペレーションズ・リサーチⅡ、オペレーションズ・リサーチⅢ、システム論Ⅱ、システム論Ⅲ

システム論Ⅳ、需要予測、計量経済学、マトリックス会議論、数値計算、数理統計学、生産管理論、経営管理論、近代経済学、経営財務論、外国書講読、卒業論文、特殊講義、商業実習Ⅰ、商業実習Ⅱ、職業指導、憲法、行政法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、商法Ⅰ、商法Ⅱ、商法Ⅲ、労働法特に、中型コンピュータのみならず、3年ほど前から1室に配置された23台のマイクロコンピュータを使用して講義、研究を行なっている。

また、当学科の学生は積極的に通産省情報処理技術者試験を受験し成果をあげており、多くの卒業生がコンピュータ関連の仕事についている。当学科のめざすところは理論面にかたよることなく応用面にも強い人材の育成にあり、教員、学生ともに日夜努力している。

本稿執筆にあたり本学入試・広報課の協力により入試・広報課の資料を使用させていただいた。ここに感謝の意を表する。  
(海生直人)

### 「研究室だより」原稿募集

ご執筆していただく内容は特に限定いたしません。たとえば、講義、講座の紹介、研究室の出来事や行事の紹介、など自由にご執筆ください。

また、研究室の範囲は、研究機関や大学全体、学部、学科、学科内の1研究室など、いずれでも自由です。

会員の皆様からの積極的なご寄稿をお待ちしております。